

# 東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	関口隆三臨床教授送別の辞
別タイトル	Farewell Professor Ryuzo Sekiguchi
作成者（著者）	五味,達哉
公開者	東邦大学医学会
発行日	2022.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 69(1). p.26 26.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2021_056
メタデータのURL	<a href="https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD62242308">https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD62242308</a>

# 関口隆三臨床教授送別の辞

五味 達哉

東邦大学医学部放射線医学講座（大橋）

2022年3月31日をもちまして、関口隆三教授が退任されます。

関口先生は1983年に東邦大学医学部をご卒業され、大橋病院放射線医学研究室に入局されました。入局後は温熱療法に取り組み、1985年に米国スタンフォード大学放射線生物学 (George M Hahn 教授) に留学され、温熱療法の基礎研究に取り組まれております。卒後2年での留学は現在でも大変な覚悟があると思われませんが、躊躇することなく留学され、マウス正常組織の温熱死および熱耐性の誘導についての研究をまとめられております。ただ、留学直前はかなり緊張されていたと、当時の医局員の先生からお伺いしております。また、放射線生物学は現在でも東邦大学には存在しない研究部門であり、東邦大学にとって貴重な存在となっております。

帰国後、1987年からは国立がんセンター中央病院の画像診断レジデントとなり、おもに腹部画像診断を基礎から学ばれております。その後、1990年に大橋病院放射線医学研究室に帰局されております。私が大橋病院放射線医学研究室に入局したのがちょうど1990年であり、私に関口先生と最初にお会いしたのは入局1年目になります。当時は検査室で読影をしていたのですが、関口先生は朝早くから検査室に入り、読影をされておりました。私は1年目でしたので、特にCTの検査方法から読影に至るまですべてを教えてくださいまして。当時のCTは1スライスを撮像するのに5秒を費やしていた時代ですので、診断が検査方法に左右されるため、検査方法が特に重要となる時代でした。読影では消化管腫瘍の症例に関して特に厳しくご指導いただいたのを記憶しております。また業務終了後にもよく飲みにご一緒させていただいておりました。関口先生は学生時代にはラグビー部でご活躍されており、そのためか何事にも全力で取り組まれておりました。診断では何でその診断に至ったかを常に突き詰めておられました。このため我々が読影するときには、診断に至る過程を説明する必

要があり、常に緊張していた記憶があります。現在では、読影件数が大変多くなかなか1症例にかかる時間がありますが、当時、1症例ごとに教えていただいたことは貴重な経験であったと思っております。

大橋病院放射線医学研究室での勤務は短く、1990年10月には国立がんセンター東病院の開設に関わられ、準備室がおかれていた国立療養所松戸病院に異動されました。当時、大橋病院では放射線科としてIVRに関わるのが少なかったため、私を国立療養所松戸病院まで呼んでいただき、IVRを教えていただいたことをよく覚えております。国立がんセンター東病院には1992年より勤務され、その後2007年より栃木県立がんセンター画像診断部部長として赴任されております。また厚生労働省がん研究助成金による「画像診断に基づく消化器がん、肺がん、乳がんのclinical stagingの確立と治療法選択に関する研究」において、4年間主任研究者を務められました。この研究班には私も班員として声をかけていただき、班員として研究に携わることができたことも私にとって貴重な経験となっております。2013年に臨床教授として赴任されるまで、がんセンターでの勤務が中心になっておられましたが、この間にも大橋病院放射線科の医局員を気にかけてくださり、多くの医局員がお世話になっております。

2013年に臨床教授として赴任されてからはおもにCT、MRIの診断をされる傍ら、超音波検査にも携わり、2013年から退任されるまで腹部以外の超音波診断報告書の確定をされており、超音波検査においても欠かすことのできない存在となっております。また上部消化管、肝胆膵、泌尿器疾患のカンファレンスにも積極的に参加され、他科との連携にも積極的に取り組まれておりました。

長年にわたり放射線医学に多大な功績を残し、また後進の育成にも積極的に取り組まれた関口隆三先生に在籍者の代表として感謝申し上げます。また今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。